

18 招かれなかつたお誕生会

聞かされた孫はA子ちゃんに

どうして呼んでくれないの 私はとても待ったのよ

今日は、『招かれなかつたお誕生会』という詩を紹介します。作者は、人権の詩人・江口ないとさん。被差別部落の出身といつ理由で、息子、孫の三代にわたる差別を経験してきました。

まづはお聞きください。

『招かれなかつたお誕生会』 江口ないと

孫は小学四年生 かわいい顔した女の子
仲良しA子ちゃんの誕生会

小さな胸にあれこれと選んで買ったプレゼント

早く来てねと友の呼ぶ電話の声を待ちました

夕陽が山に沈んでも 電話の声はありません

孫はポツリとしました

きつと近所のお友達おおぜい遊びに行つたので

お茶わん足りずにAちゃんは困つて呼んでくれないかも

二、三日たつた校庭で

A子ちゃん家の誕生会楽しかつたと友人に

A子ちゃんとても悲しい顔をして
私は誰より千恵ちゃんを呼びたく呼びたく思ったの
けれども私の母ちゃんは呼んではならぬと言つたの
それで呼べずじめんねとあやまる友のその顔を見つめた孫の心にはどんな思いがあつたでしよう

私は孫にいました

お誕生会に招かれずさびしかつただろうねと

孫はあのねおばあちゃん

A子ちゃんとても優しいの私の大事なお友達

A子ちゃん悪くはないのよお母さんが悪いのよ
大人つてみんな我まよ

寂しく言った孫の瞳に光る涙がありました

どんなするどい刃物より私の胸を刺しました

いかがでしたか。

江口さんは、わが子の就職差別をきっかけに、生涯かけて全国で三千回以上の講演を行つてきました。「就職でも、結婚でも、はては孫の誕生会まで、なぜ…」と訴え続けてきた江口さん。大人の根深い偏見が、子どもたちに誤った行動をさせてしまった怖さがこの詩からも伝わってきます。

二〇一六年には、部落差別のない社会を実現することを目的とした「部落差別解消推進法」が施行されました。それでもなお、インターネット上には差別や偏見につながる動画や書き込みがあり、今も苦しんでいる人たちがいることを、私たちは決して忘れてはいけません。

大切なのは、私たち一人ひとりが同和問題について正しい知識を身につけること。そして、今日のような詩を聞く中でも、「もしも自分がだったら…」と考えてみると「ことではないでしょうか。では、また。

